

**空技廠**  
零式練習戦闘機 22型

ハセガワ&童友社  
1/100スケールプラスチックキット  
製作・文 政府開発援助

### 1. 零式練習22型について

中等練習教程を終えた搭乗員の实用戦闘機への転換訓練をスムーズに行う為に、零式艦上戦闘機を母体とする練習機が作られた。零戦21型を複座化した零式練習11型に続き、昭和20年初めには零戦52型を基にした零式練習22型が完成した。零式練習22型は11型と同様に零戦を複座化したもので、前席は開放式で後方の教官席のみ風防が設けられている。また、複座化による安定性確保の為に後部胴体に安定ヒレが追加され、降着装置にも変更が見られる。ただし、この22型は量産準備中に終戦を迎えている。

### 2. キットについて

今回はキャノピー部分を加工する都合上、ストックのベーシックひこうきシリーズの部品を使用しました(ワンアワーコインシリーズとして展開されているものと同一形状)。どちらかという入門用キットの様な仕様ながらプロポーション・モールドともきちりしています。

### 3. 製作と塗装について

母体の零戦に関しては、カウリング・プロペラ・脚収納部等に定番の工作を施しました。複座化にあたり、モデルアート誌2006年10月号の零式練習11型の作例をかなりの部分で参考にしています。最大の難関であるキャノピーの延長にはジャンクとなっていた童友社の零戦のものを流用しましたが、温めて幅を狭くしている最中に中央から割れてしまい、ちょっと不満が残るものになってしまいました。主脚は童友社の部品に上部のみ脚カバーをプラ板にて追加、尾輪ブロックは一旦切り取り、車輪をリベットパーツで大型化するとともに取り付け部分をステンレス線にて延長しています。翼内機銃は撤去されているので銃身は付けず、主翼下面の機銃ハッチのふくらみのみ市販リベットパーツを用いて再現しました。

塗装はクレオスの銀色・ベースホワイトの順に吹いて下地を隠蔽した後、前述のモデルアート誌を参考にラッカー系の黄橙色を筆塗りし、その後細部を主にエナメル系カラーを用いて塗り分けています。なお、機番等を入れず、付属デカールの日の丸を貼りました。量産準備機ということで光沢仕上げとしています。



前方より



後方より

### 4. 途中画像



前後の座席部分を開口し、ヒートプレスしたシートを床板に位置合わせをして接着。



主脚は童友社のものの付根にのみカバーを接着、尾輪はリベットパーツにて大型化。



キャノピーは童友社のもの(1)~(3)とハセガワのもの(4)~(6)をバラバラにして組み合わせている。



キャノピーの後退に伴う胴体の形状変更と追加した安定ヒレがわかるだろうか。